

会津は米どころ コシヒカリ・ひとめぼれの特A産地!!

両沼地方営農情報 第3号

平成26年6月 日

発行：JA会津みどり営農部・各総合支店

福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2112）

”

金山普及所（電話0241-54-2801）

1 気象情報

東北地方南部は平年より7日早い6月5日に梅雨入りし、雨の日が続いています。

6月は、平年並みの気温となる予報ですが、7月、8月の気温は、平年並みまたは平年より低い確率80%と、冷夏になる恐れがあります。

（仙台管区气象台発表情報より抜粋）

2 水稻の生育状況

田植え以降、高温が続き、茎数、葉数が平年より多く、生育が早まっています。

表1 農業総合センター会津地域研究所 水稻作柄概況（6月3日調査）

品種	研究所	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	最終葉数
コシヒカリ	研究所	本年	24.6	141	5.9	
会津坂下	研究所	平年	24.7	113	4.7	13.0
5/20 移植	研究所	平年比	100%	125%	+1.2	
ひとめぼれ	研究所	本年	23.3	150	5.7	
会津坂下	研究所	平年	23.1	131	4.8	12.6
5/20 移植	研究所	平年比	101%	115%	+0.9	

3 分けつ期の水管理と中干し

(1) 有効茎数の確保

浅水管理（2～3cm）を継続して分けつの発生を促進します（昼間止水・夜間かん水）。水の掛け流しはせず、水温・地温の上昇に努めます。

ガスがわいている場合は、1～2日落水してガス抜きしましょう。表層はく離・アオミドロ等の発生が多く見られる圃場については、水の入替えを実施するか、薬剤で対応してください（表2参照）。

(2) 中干しの実施

有効茎数が確保できたら、落水して中干しを実施しましょう。中干しは、遅発分けつの抑制のほか、根の健全化、耐倒伏性の向上などの効果があります。



引用：星川清親先生「水稻の増収技術」

ただし、水不足が心配される場合は、中干しは控え、間断かん水で管理しましょう。中干しは7月5日頃までに終了させるようにしましょう。

4 雑草防除対策

昨年は、ヒエを中心に、残草が多くみられました。初・中期一発除草剤で防除しきれなかった場合は、下記を参考に中期除草剤または限定草種用除草剤で対処しましょう。

(1) 中期除草剤

除草剤名	使用量(/10a) 〔希釈水量〕	使用時期	使用方法
ハイカット1キロ粒剤	1 kg	移植後 15日～ノビエ 3.5葉期 (収穫 60日前まで)	湛水散布
クリンチャーバス ME 液剤	1,000 ml 〔70～100L〕	移植後 15日～ノビエ 5葉期 (収穫 50日前まで)	落水散布 または ごく浅く 湛水散布
ヒエクリーンバサグラン粒剤	3 kg	移植後 15日～ノビエ 4葉期まで (収穫 60日前まで)	ごく浅く 湛水散布
フォローアップ1キロ粒剤	1 kg	移植後 20日～ノビエ 5葉期まで (収穫 60日前まで)	湛水散布
バサグラン粒剤	3～4 kg	移植後 15～50日 (クログワイは移植後 15～35日、シズイは移植後 25～55日) (収穫 60日前まで)	落水散布 または ごく浅く 湛水散布

※バサグラン粒剤は、イネ科雑草(ノビエ)には効果がありませんので、イネ科雑草に効果のある除草剤との組み合わせによる体系除草を行って下さい。

(2) 限定草種用除草剤

除草剤名	使用量(/10a) 〔希釈水量〕	使用時期	使用方法
ヒエクリーン1キロ粒剤	1 kg	移植後 15日～ノビエ 4葉期まで (収穫 45日前まで)	湛水散布
クリンチャー1キロ粒剤	1.5 kg	移植後 25日～ノビエ 5葉期まで (収穫 30日前まで)	湛水散布
クリンチャーEW	100 ml 〔25～100L〕	移植後 20日～ノビエ 6葉期まで (収穫 30日前まで)	湛水散布 または 落水散布
モゲトン粒剤	2～3 kg	ウキクサ類、藻類の発生始め～発生盛期 (収穫 45日前まで)	湛水散布
ノミニー液剤	50～100 ml 〔100L〕	移植後 30日～クサネムの草丈 40cm 又はイボクサの茎長 30cm まで (収穫 60日前まで)	落水散布 または ごく浅く 湛水散布

※クリンチャーEWを使用する場合は、展着剤を加用してください。

③田植時に箱粒剤を使用しても、葉いもちの発生が見られた場合は、散布剤（粉剤、液剤等）で追加防除しましょう。

◎散布剤による防除 ブラシン粉剤DL、ビーム粉剤DLなど

④朝、夕の薬剤飛散の少ない時刻に散布しましょう。

⑤田植時に箱粒剤を使用していない水田、水稻直播栽培の水田では、葉いもち対策として、水面施用剤により防除しましょう。

◎水面施用剤による防除

薬剤名	使用時期〔葉いもち〕	使用量 (/10a)	使用方法
フジワン粒剤	初発 10～7 日前	3～5 kg	湛水散布
オリゼメートパック	初発 10～7 日前	20～26 個	湛水散布
オリゼメート粒剤	初発 10 日前～初発時	3～4 kg	湛水散布
コラトップ粒剤5	初発 10 日前～初発時	3～4 kg	湛水散布

（3）斑点米カメムシ類

ヒエやホタルイなど雑草は、斑点米カメムシ類の発生源・誘引源となります。

初・中期一発除草剤で防除しきれなかった場合は、上記の中期除草剤、後期除草剤で確実に防除しましょう。

近年は、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）とアカヒゲカスミカメ（以下、アカヒゲ）の飛翔型が増え、斑点米発生の原因となっています。アカスジは稲、雑草問わず「穂」への依存度が高く、繁殖も「穂」のみに限られるのに対し、アカヒゲは穂、茎葉どちらでも生育や増殖が可能です。越冬世代の幼虫は、スズメノテッポウやスズメノカタビラなどを餌にしながら、6月上旬に羽化し成虫となります

この時期になるとスズメノテッポウやスズメノカタビラは実を落とし（一旦）枯れてしまいますので、新たな餌を求めて雑草地などに飛来します。6～7月に開花結実するネズミムギ（野生化したイタリアンライグラス）やカモガヤ（オーチャードグラス）など。6月中旬にこれらの雑草に産卵します（第1世代卵）。

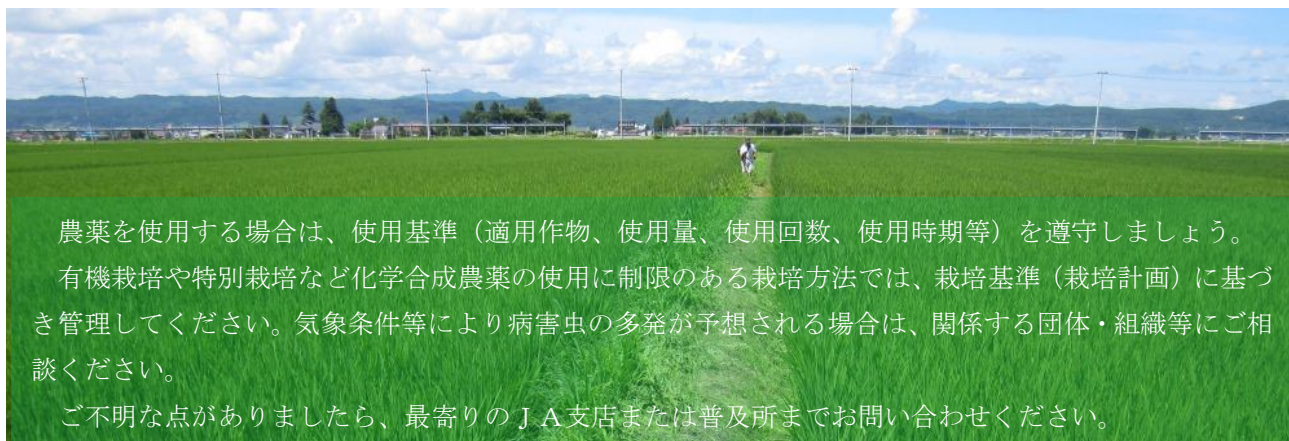
7月下旬～8月上旬に水田内にヒエ等の雑草（アカスジはヒエに加えてホタルイ）があると、イネの出穂を待たずに水田内に侵入します。



ホタルイの小穂



アカスジ



農薬を使用する場合は、使用基準（適用作物、使用量、使用回数、使用時期等）を遵守しましょう。

有機栽培や特別栽培など化学合成農薬の使用に制限のある栽培方法では、栽培基準（栽培計画）に基づき管理してください。気象条件等により病害虫の多発が予想される場合は、関係する団体・組織等にご相談ください。

ご不明な点がございましたら、最寄りのJA支店または普及所までお問い合わせください。